

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 隆愛会	代表者	前川 敏子	法人・事業所の特徴	「住み慣れた家で元気に生活できるように」を理念とした支援を実施しています。 ・ご利用者の状態を把握するためにご家族との連携を密にし、各々の利用者の状態に応じた利用ができるようにしています。 ・ご利用者の思いを汲み取れるようなコミュニケーションに努め、イベント開催や作品作りなどを利用し、地域との交流を楽しめるようにしています。 ・今できる事を続けていく事で、自宅での生活が続けられるようにしています。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 芙蓉	管理者	原口 豊利		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	4人(書面会議)	人	人	人	人	3人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	職員全員のスキルアップに努め、利用者様の目標に対して職員全員が同じレベルの支援を提供できるようにする。	介護知識・技術の向上を目指し、今年度は職員 2 名が新たな資格取得に挑戦しました。また施設内研修には非常勤の職員も参加しました。	職員さんが資格取得に向け努力しているのは素晴らしいと思います。今後も頑張ってもらいたいです。	・非常勤職員のスキルアップ・必要研修の受講を実施する。 ・介護福祉士の在籍率 70%以上を目指し、資格取得に努める。
B. 事業所のしつらえ・環境	安全面にも配慮しながら、常に整理整頓・美化・衛生面を心掛け、より快適で居心地の良い施設作りをする。	新型コロナウイルスの流行に伴い、例年以上に施設内の消毒・換気等を徹底的に行い、感染予防に努めています。	病院や施設は、特に感染対策が大変だったでしょう。コロナがいつまで続くかわからない中、大変と思いますが頑張ってください。	・引き続き、施設内の消毒・換気を徹底的に行い、ご利用者が安心して過ごせる環境を整える。 ・明るい雰囲気や来所者に伝わるよう、玄関にご利用者の作品などを展示する。
C. 事業所と地域のかかわり	今後も地域の小中学校やボランティアの受け入れを継続し、地域の方と利用者の関りを繋ぐ支援を行っていく。	新型コロナウイルスの流行に伴い、地域ボランティアの受け入れは中止しています。また芙蓉祭などの施設内行事も規模を縮小して開催し、外部の受け入れは行っていません。	外部の受け入れを中止されたのは当然のことと思います。今後もコロナの動向を見ながら、地域との関りを検討されたいいのではないのでしょうか。	新型コロナウイルスの感染状況・ワクチンの摂取状況を見ながら、地域とのかかわりを検討していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域に出向く取組みを進め、地域の暮らしや介護相談の窓口として努めていく。	感染予防のため、地域に出向く取組みを行うことはできませんでしたが、たんぼぼ新聞などで施設の取組みについての情報を発信しました。	今年度は地域の行事も中止となっていることが多く、参加するのは難しかったと思います。	新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、地域行事の参加・散歩やドライブなど、ご利用者と共に地域に出向く機会を設ける。
E. 運営推進会議を活かした取組み	地域内の情報を会議の中で集め、参加されている方々の意見を参考にしながら地域との一体化を図る。	運営推進会議は書面会議となり、例年ほど地域の方と活発な意見交換や情報収集はできませんでした。	2 か月ごとに郵送される書類に目を通し、写真などで利用者さんの様子を見させて頂きました。コロナ禍で大変とは思いますが、変わらず支援を続けてほしいです。	施設の取組みについて、書面会議でもわかりやすいよう資料の内容を再検討し、また地域の意見を取り入れやすい工夫を行っていく。

F. 事業所の 防災・災害対策	各種災害マニュアル整備が完全でないため、災害を細かく想定し、マニュアルの見直し・整備をする。	避難訓練や災害マニュアルの見直しは行っているものの、様々な災害が発生した時の具体的なマニュアル策定には至っていません。	施設付近には川があり、様々な災害が想定されると思います。引き続き、マニュアルの見直しを行ってほしい。	災害時事業継続計画(BCP)の立案が義務付けられたため、計画作成に取り組む。
--------------------	--	---	--	--